

経営者の皆様に、次への視野(スコープ)を。
毎月、かんぽ生命がお届けします。

かんぽスコープ

Vol.169

経営時流

会社は譲る。仕事は続く。 社長の退職 その後を充実させるM&Aがある。

中小企業の事業承継が日本経済の課題とされる昨今。見過ごされがちなのが、事業を譲る社長の個人としての存在です。それまで人生の全てをかけて育ててきた会社を退いたあと、自分はどうすればいいのか。勇退後のセカンドライフについて考えることは重要です。そこで今回は、M&Aで会社を譲渡後、代表権のない会長としてとどまり、責任が軽くなった立場で自身のライフワークの追求や後進の育成を行う方法があることを紹介。有限会社林庭園設計事務所の林好治会長の事例を通じて、経営者の第二の人生について思いを巡らせてみたいと思います。

**好きでやってきた仕事を
もっと高めていきたい。**

「今は、仕事なんだか、趣味なんだか……楽しく庭造りをさせてもらっています」と林氏は笑顔を見せる。



「現場が好きだから」と、仕事を続ける林氏。

それが許されているのは、M&Aで会社を譲渡したおかげだと語る。

M&Aには、良い印象をもたない経営者もいる。会社を売ってお金を手にすることに、後ろめたさを感じるからだろう。しかし、そうしたキャピタルゲインが目的ではなく、林氏のように、人生を充実させるために行うM&Aもあるのだ。

「それまでの苦勞の代償として金銭を得ると考える人もいるでしょう。でも、私の場合は、好きでやってきた仕事です。その仕事を、社長の立場を離れて継続し、もっと高めていきたいという思いなのです」

雑木林を庭に再現する、その独特な作庭技法。現在は、顧客から「先生」と呼ばれて慕われ、頼りにされている林氏の、これまでの歩みを簡単に振り返ってみよう。

**理想と考える庭造りを
ひたすら追求。**

林氏は、大学の造園学科を卒業。住宅メーカーに就職し、庭を設計し



ていたが、次第に不満が募ってきた。「プランどおりに職人が工事してくれないんですよ。現場でないとは分からないことがあるからですが、だったら施工まで自分でやらないとダメだと思って、尊敬する親方に弟子入りして、休日を使って職人の修業をしました」

その後、退職して1983年に林庭園設計事務所(以下、林庭園)を設立。林氏32歳のときだ。注文住宅から建売住宅まで幅広く受託し、事業は順調に拡大したが、10年ほど経ったところ、害虫が大量に発生したことから庭木を消毒する風潮が高まり、林氏は立ち止まった。

「植物が病気や害虫に悩まされるのは、栄養状態や生育環境が悪いからです。消毒しなくても庭木の健康を保てるように、土づくりから始めようと考えました」

そこで農家の土づくりを研究したが、庭は耕すわけにいかない。ではどうするか。試行錯誤の果てに到達した結論が、雑木林に学ぶだった。「雑木林は、枯れ葉や倒木が朽ちて



なじみの顧客の期待に応えようと庭造りに打ち込む林氏。



有限会社林庭園設計事務所 〒193-0823
東京都八王子市横川町991-6
☎042-622-8840
<http://hayashiteien.co.jp/>

土になります。そこにミミズや微生物が棲んで土を豊饒にします。庭は敷石などで覆いますが、土の部分なるべく残して、また、高木・低木のバランスを整えて、雑木林の生態系を再現するのです」

並行して、古材を活用する手法も開発した。古い家を解体したときに出る瓦や庭石、灯籠、つくばい、鉢、鉄道の枕木、廃レンガ、流木や倒木などを配置し、新しい庭でも時の流



林氏の希望は、林

技術を伝承するために 会社の譲渡を決める。

「体もきつくなってきたので、この先、会社はどうしますか？」と、事業承継の問題を持ちかけられた。林氏は、従業員を集めて社長を譲る提案をしたが、手をあげる者はいなかった。

「枯れ葉を捨てないで土にまいてください」などと、自身のポリシーを面と向かって伝えられるからだ。

「会社の譲渡に当たって要求したのは、現状をそのまま受け継いでほしいということだけです」

思いあぐねた妻は、19年に事業承継・引継ぎ支援センター*に相談。紹介されたのがヒューマンヤード株式会社だった。同社はエクステリア全般の設計・施工を行っているが、造園部門は手薄。林

「昔からのおなじみで、私を頼って声をかけてくれます。このお客さん方に喜んでもらえる感触が、どうしても忘れられなくて、庭造りを続けているのかもしれないね」

庭園の技術を残すこと。ヒューマンヤードとしては、造園部門を強化する目的があったため、林庭園の技術の裏づけとなつている資産を全て丸ごと受け継ぐことに同意した。

*中小企業の事業承継に関する相談に応じる公的機関で、M&Aの支援も行う。各都道府県に設置されている。

長寿の7大敵を撃退

⑦ 認知症を防ぐ



監修=栗原毅

慶應義塾大学大学院教授を経て、栗原クリニック東京・日本橋を開院。「血液サラサラ」の名付け親のひとり。『栗原式 不老長寿大全』など著書多数。

認知症の原因物質を掃除する

この連載も、今回が最終回。寿命には直接関係しませんが、長寿によってリスクが高まる認知症について説明しましょう。

まずは、老化による物忘れと、認知症による記憶障害の違いです(右図参照)。人間の記憶は、受け取った情報を脳の中に定着させ、それをのちに取り出すというプロセスで成り立っています。認知症の記憶障害は、このプロセスとは無関係に、神経細胞が死滅していくことで起こります。

認知症で最も多いアルツハイマー型認知症では、アミロイドβというタンパク質が脳内に増え、神経細胞にまとわりついて情報伝達を妨害します。しかし、アミロイドβは脳が活動する際に出るゴミのような物質なので、きれいに除去できていれば問題ありません。血液をサラサラにし、

脳に新鮮な血液をたくさん送り続けてアミロイドβを掃除しましょう。“血液サラサラ”については、本連載の「動脈硬化を防ぐ」(Vol.168掲載)をご覧ください。

認知症は脳の糖尿病

近年、認知症と糖尿病の関係が注目されています。糖尿病になるとアルツハイマー型認知症の発症率が3~4倍高まり、その理由が、血糖値を下げるインスリンの働きが悪いことによるのです。

インスリンは膵臓から分泌されますが、脳内でも少しくらわれていて、アミロイドβを排出する役目を担っていることが分かりました。糖尿病の人は、インスリンが十分に働かなくなるために、アミロイドβが蓄積し、脳の萎縮が進むのです。

「アルツハイマー型認知症は脳の糖尿病」ともいえるので、「糖尿病を防ぐ」(Vol.163

掲載)で紹介した対策が有効です。

そして、最近の研究で、緑茶に認知症の予防効果があると報告されています。緑茶に含まれるカテキン類が効くようです。茶葉をお湯で出して飲むのも良いですが、茶葉そのものを飲む粉末緑茶が、カテキン類が豊富なのでおすすめです。

老化と認知症の忘れ方の違い

| 老化による物忘れ | 認知症による記憶障害 |
|---|---|
| 一部を忘れる。記憶の帯はつながっている。 | 全体を忘れる。記憶が抜け落ちる。 |
| 記憶の流れ | 記憶の流れ |
| ・体験の一部を忘れる。 ・ヒントがあれば思い出せる。 ・例えば、食事の献立が思い出せない。 | ・体験したことを忘れる。 ・ヒントがあっても思い出せない。 ・例えば、食事をしたこと自体を忘れる。 |

(注) 記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。